

2011年度 学校評価報告書 (京都聖母学院中学校・高等学校)

学校目標	カトリックの人間観・世界観にもとづく教育を通して、社会に貢献できる人間を育成する。
------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神に基づく教育活動により、カトリックの精神を醸成する。 2. 補充学習の機会を増やし、学力の向上に取り組む。 3. 教育活動の様子を広く発信する。
------	--

学 校 自 己 評 価				
目 標		評 価		
番号	重点目標	具体的方策	取組の成果	次年度への課題と改善
1	建学の精神に基づく教育活動により、カトリックの精神を醸成する。	<ol style="list-style-type: none"> ①福祉活動を通して、「愛・奉仕・正義」の精神を養う。 ②錬成会や宗教行事(創立記念日、クリスマスミーティング等)などの取り組みを通して、カトリックの精神を受け継ぐ。 ③各種ボランティア活動に参加し、社会奉仕について考える機会を持つ。 	<ol style="list-style-type: none"> ①福祉活動に関する取組を通して、心の教育を行い、身体的差異や世代を超えて交流できる心を育てた。「車いすアイマスク体験」「福祉施設訪問」「敬老のつどい」、東日本大震災関連として、菅野武(元志津川病院内科医長)の講演を行い、命を尊ぶ精神を育てることができた。 ②祈りを通して、創立者の思いを回帰し、本校の建学の精神とカトリックの教えへの理解を深めることが出来た。 ③委員会活動、選択授業、部活動などを通して、クラス・学年の枠を超えたボランティア活動を行い、奉仕する喜びを実感させることができた。 	<ol style="list-style-type: none"> ①取り組みが学年進行にしたがって、継続的・体系的に設定されていない課題があり、所管部署が主導し、発達に応じたカリキュラム見直しが必要である。 ②各宗教行事の意義について、宗教科と担任との共通認識を深め、一体感のある行事運営を行う必要がある。 ③活動に参加した生徒の思いを周囲に発信していく場を設け、学内で共有していくことを検討する。
2	補充学習の機会を増やし学力の向上に取り組む。	<ol style="list-style-type: none"> ①長期休業中の中学講習を充実させ、学力不足の生徒から高学力の生徒までに対応した補充学習を行う。 ②朝の定着学習による英語を中心とした科目の基礎事項の定着をはかる。 ③高校生特進コースの放課後模試講習の充実。高校土曜講習による効果的な指導。 	<ol style="list-style-type: none"> ①参加率が高く、多くの生徒にとって長期休業中の学習習慣の手助けとなった。また、学期中に理解不足の内容を補う機会となった。 ②短時間、狭い範囲の学習であることから、学力にかかわらず意欲的に取り組むことができ、積み重ねることで一定の効果が認められた。 ③模試対策にしばった講習により、目的意識を持って取り組むことができた。土曜講習においては講師の指導力の高さにより、大学受験に対応する学力の養成に大きな効果があった。 	<ol style="list-style-type: none"> ①各教科の時間数の配分は検討すべきである。また、自立した家庭学習の重要性も意識させる必要がある。 ②回数の中で、基礎事項の全てを補うには十分であるとは言い難く、長期間の記憶定着には繋がりがづらい。 ③日常の授業と講習内容の乖離があり、生徒の学習の流れが一貫していない教科がある。
3	教育活動の様子を広く発信する。	<ol style="list-style-type: none"> ①「学校だより」の発行回数を増やし、学校生活の様子や行事予定などの情報を保護者に伝えていく。 ②ブログ「SEIBOLIFE」により、生徒たちの日常の様子を発信していく。 ③授業公開週間を設定し、学校へ保護者が訪れやすい雰囲気をつくり、懇親会を設定しやすい期間を設ける。 	<ol style="list-style-type: none"> ①年間37号発行し、保護者から学校に対する理解と励ましの言葉をいただいた。これまで意識されなかった小さな行事についての取り組みが保護者にも認知されるようになった。 ②校長による日記風のメッセージとともに、カラー画像の生徒たちの表情を掲載することで、「学校だより」とは違った形で本校の雰囲気を伝えることができた。多くの保護者の安心感の向上にもつながった。またインターネットメディアによる発信であることが、学内だけでなく学外の受験生などへの学校認知に貢献している。 ③授業参観は常時可能であるが、参観する保護者はほぼ皆無であったため、今回公開週間を設けたことで、より保護者へ来校をうながす理由づけができた。また、他学年の授業を参観いただくことで進級の参考になったとともに、授業評価の機会を得ることもできた。保護者懇談会の設定も合わせて行い、学年担当と保護者間の理解が深まる機会となった。 	<ol style="list-style-type: none"> ①一方通行の発信になりがちであり、保護者や生徒の言葉をどのように掲載していくかも検討する必要がある。 ②個人情報・肖像権の関係で、本来発信したい内容が発信できないなど、情報の公表に限界がある。 ③期間中の来校者数は、まだまだ多いとは言い難い。普段意見をうかがえない保護者からの潜在的な意見をもっと汲み取る必要がある。

学 校 関 係 者 評 価
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>生徒、保護者、教員に評価アンケートを行った。 生徒対象…学校生活評価 授業評価 保護者対象…学校生活評価 授業評価</p> <p>【評価と意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様、選択方式の設問は肯定的な回答の率が、ほぼすべての項目について高かった。全体的にみると安定して満足度の高い回答だといえる。 ・「遅刻防止など基本的な生活習慣が身につくような指導が行われている」については評価が高く、今年度の生活指導部が行っている遅刻指導強化が反映されていると思われる。しつけ面の指導においては、厳しい指導内容であっても保護者からの理解は得られている。 ・学校生活においておおむね満足しているが、教師によって教え方や生徒に対する接し方に差があることへの批判的な意見も寄せられた。 ・授業内容に関する設問は満足度がやや低い。授業内容だけでなく、興味関心を持たせる導入や、授業のスタイルが生徒たちに適したものに改良されているかなどについて検討すべきだと思われる。 ・補習、講習に対しては、学習内容と学習範囲の面で保護者の思いと食い違いがあり、学力不振の生徒に対する補充の要望が大きい。 ・宗教行事、心の教育については理解が得られており、カトリックミッションスクールとしてより伝わる形で行ってほしいと期待されている。